

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

倉谷邦雄(文・写真)

日時：2017(平成29)年8月4日(金) 9:30~13:00

気象：天候=晴

活動エリア：モニタリング調査区を中心に活動地一帯

活動内容：大阪さとり地域協議会の視察対応

(視察者 山本 積氏、渡辺昌造氏)

参加者：斧田一陽、倉谷邦雄、 (計2名)

<ようこそ本山寺山へ：「さとり」による活動地視察>

大阪さとり地域協議会では、**29年度さとり申請地の現場視察、特にモニタリング箇所の確認を中心に各団体の活動地を巡回中で今日は我が本山寺山の番。**案内、説明役は斧田、倉谷の二人が担当。

挨拶等の後、即ポンポン山へ向けて出発。午前10時倉庫着。ヘルメット装着等装備を整え先ず「44林班」内に設定した2か所のモニタリング調査区を目指す。

渡辺氏は兵庫県立大学に籍を置いていて、先日視察に見えた箕面の江間森林官も同様で一定の交流があるとの話など打ち解けたムードで歩く、ピッチも上がる。途中、ブナやアカガシの幹に巻いたビニールについて質問あり。また、本山寺自然保護協会(会長は本山寺の百済住職)が設置した柵のなかの植物について、また、シカの被害についても質問あり。

<モニタリング方式採用の裏話 & 整備ぶりへの評価の声>

「44林班」内では**年輪豊かなモミ・ツガを見て感嘆の声。**その見分け方などについてひとしきり講義を受ける。ツガは英語では”ヘムロック”と言うようだが、建材として輸入しているものの高級ではないなど。

「44林班ろ」のモニタリング調査区に到着。斧田さんから一通り説明を受けた視察団は整備された状況に感心された様子。そのまま尾根筋を登って「44林班い」のモニタリング地点へ。途中、今年度の助成金が大幅に削減された事情について話あり。全国的には申請を諦めた府県もいくつかあった模様で大阪でも「さとり」登録団体が30数団体に減少したとのこと。『**地道に活動・努力している団体が残っている**』との話に意を強くする。無論、国には国の事情があり、事業評価的には多額の予算を費消している割には効果が乏しい、との指摘に応える主旨で今回のモニタリング方式が導入されたとのこと。

天狗杉を経て「45林班」へ向かう。「45林班」に入ったとたん、林相が変わり風も通らず蒸し暑いこと。こういう中で活動している**我々森林づくりの会に労わりの言葉**をかけてくれる。3か所目のモニタリング地を視察。周辺は枝が張っている状況を見て、枝打ちは助成対象に含まれていないような話があったが、なくても実施することは差し支えない。『**きれいな森を実現してほしい**』との話。ここで時間が正午を大きく過ぎていくことに気づく。午後は新規の自然保護団体に対する登録等の説明が予定されているとのこと、4か所目は省くこととされた。ご両人を高槻へ送りこの日の視察案内を無事終了。

【本山寺本堂前】



【ツガの古木(途中で折れながらも枝を伸ばす)】



【44林班内の里道】



【44林班のモニタリング調査区へ】



【常に地図を確認しながら45林班へ】



【45林班のモニタリング調査区】

